

## マ ガレット マルカス 米国出身の元ユダヤ教徒 (4/5)

:

明:

マ ガレットは、クルア ンが彼女の人生に与えた影 について、そしてユダヤ人とアラブ人の について自身の 解を述べます。

目: [事新改宗者ムスリムの逸 女性](#)

より: マ ガレット マルカス

📅 8 Apr 2014

集日 28 Apr 2014

新 には来世が言及されているのを つけましたが、クルア ンにおけるものと比 すると、それは 味で漠然としたものです。死の については、タルム ドで「最 な人生の方が死よりもましである」と かれてるように、正 派ユダヤ教からは答えを 出すことが出来ませんでした。私の は、死について考えることを避け、可能な限り人生の今を しむべきだという刹那主 の持ち主です。彼らによると人生の目的とは自己 、家族 、心の知れた友人たちとの付き合いに加え、快 な暮らしとアメリカが 富に提供する 々な を しむことによって 成されるということでした。彼らは意 的にこうした人生への表面的なアプロチを、それがあたかも持 する幸福と幸 の であるかのように教化したのです。私は自身の苦い から、放 な人生は惨めさに直 し、逆境における努力と自己 性なくしては何一つとして 大さ、または あることが 成されないことを学びました。私は幼少の から、重要で有意 なことを 成したいと ってきました。私は死ぬ前に、自分の人生を罪深い行いやな追求によって にはしなかったという が何よりも欲しかったのです。私はこれまで非常に真 に生きてきました。私は 代文化において 的な特 である、薄さというものを常に嫌 してきました。私の父は、彼自身の まぐれな 信を私に押し付け、「代におけるすべてのものはその 々の情 を不可避のものとして受け入れてそれに しているため、不 的ななどは存在しないものだ」と言って私をいらつかせました。しかし私は、永 的な何か

をつけ出したいとい けてきました。私は クルア ンから、こうした切望が することを学びました。神のご 悦を求めつつ行う善行は、 して にもならず、失われもしないということです。それを行う者が 世的な 知をされるに至らずとも、その は来世において なのです。反 に、私利私欲や社会的な 知以外の 理に わず、自由奔放な生き方を追求する者たちは、たとえ 世的な成功を め、束の の繁 を享受していたとしても、 判の日には 失者として破 を迎えるのだとクルア ンは私たちに告げるのです。イスラ ムは、私たちが神、そして同胞への を果たすことを望むのであれば、そのためにはあらゆる空虚かつ 益な活 を放 しなければならないと きます。ハディ スによってさらに明瞭となる クルア ンによるこれらの教えは、私の にぴったりと合うものでした。

Q:あなたがムスリムになった 、アラブ人への意 はどのようになり

A: の と共に、アラブ人がイスラ ムを 大なものとしたのではなく、イスラ ムがアラブ人を 大なものとしたということを徐々に 感するようになりました。 言者ムハンマド（神の慈悲と祝福あれ）なくしては、アラブ人は今では名もなき民族だったことでしょう。そして同 に、クルア ンなくしては、アラビア は消 したか、取るに足らない言 だったことでしょう。

Q:ユダヤ教とイスラ ムの 似性について教えてください。

A:ユダヤ教とイスラ ムのつながりは、イスラ ムとキリスト教のそれよりも いものです。ユダヤ教とイスラ ムはどちらも妥 なき一神教を き、 造主への服 と 情の根 として神の律法に 格に う重要性を き、 者の存在を否定し、禁欲生活を め、ヘブライ とアラビア にも 著しい 似性があります。

ユダヤ教において、宗教は民族主 と混同されており、多くの人々は2つの いを することが出来ません。「ユダヤ教」は、ユダ族に由来する名称です。ユダヤ人は、ユダ族の 一 なのです。この宗教の名称は、普遍的な精神的教えとは なものです。ユダヤ人は神の唯一性を信じることによってユダヤ人となるのではなく、ユダヤ人の血筋によって そうなるだけなのです。もし、あるユダヤ人が に衣着せぬ 神 者になったとしても、ユ

ダヤ人同胞の ではなくユダヤ人であり けるのです。

この宗教は民族主 によって完全に まれ、あらゆる面において精神的な かさを失ってしましました。彼らの神は、人 全体の神ではなく、イスラエルの神なのです。彼らの 典は全人 に向けた 示ではなく、主にユダヤ人の 史 なのです。ダビデとソロモン（彼らに神の慈悲と祝福あれ）は神の 言者ではなく、ユダヤ人の王に ぎません。ヨム キプルを例外として、ハヌカ 、プ リ ム、ペサハなどの祝祭日は宗教的なものというよりも、国家的 面の方がはるかに いのです。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/index.php/jp/articles/121>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。